

京都府

農林水産ビジョン


希望と活力に満ちた

農林水産業と農山漁村暮らしの共創



令和元年12月
京都府

～「連携」と「挑戦」で新たな時代へ～

- 「国の基（もとい）」といわれる農林水産業は、地域の気候や歴史、生活様式などを反映し、「日本人の心のふるさと」を形づくってきました。千年の都として栄えてきた京都では、古くから、農業者は、料理人のニーズに応える最高の農産物を生産し、研鑽^{さん}を重ね、現在においても京野菜、宇治茶をはじめ、伝統があり、高品質で特色ある食材が京の食文化を支えています。この京都ならではの豊かな食、それを生み出す農林水産業や農山漁村を希望と活力に満ちたものにして未来の子どもたちに確実に引き渡していくことが京都府の使命です。
- 
- 2040年頃には、国内において高齢者人口がピークを迎えます。少子化にも歯止めがかかっておらず、本格的な人口減少社会への突入は避けられません。一方で、AI、IoTなど技術革新をはじめ経済社会を取り巻く構造の変化は加速しています。農林水産分野においては、近年頻発する自然災害や自由貿易協定など貿易を巡る環境の変化がある一方、海外の日本食ブームや外国人観光客の増加、都市と農村との交流の活発化、若者の田園回帰など、将来に向けた明るい兆しも現れています。
 - 京都の農林水産業や農山漁村が、新しい時代の潮流や変化をチャンスと捉えて適応し、持続していくためには、京都ならではの強みを生かしつつ、政策システムを不断に見直す、特に、異業種との連携など施策のウイングを広げる取組や新しい挑戦が不可欠です。
 - こうした視点で、先に策定した「京都府総合計画」に示された農林水産分野における展望と戦略を更に具体化し、新たな時代にふさわしい、魅力あふれる農林水産業をつくり、多様性に富んだ農山漁村の未来を切り拓くために京都府農林水産ビジョンを作成しました。
 - 今後は、府民の皆様をはじめ、企業や関係団体などオール京都で本ビジョンに基づき総合的な施策を展開するとともに、現場主義を徹底し、自然を相手に日々の作業や経営に努力しておられる方々や地域社会で暮らす府民の皆様の目線に立ち、全力で取り組んでまいりますので、御理解と御協力をよろしくお願い申し上げます。

目 次

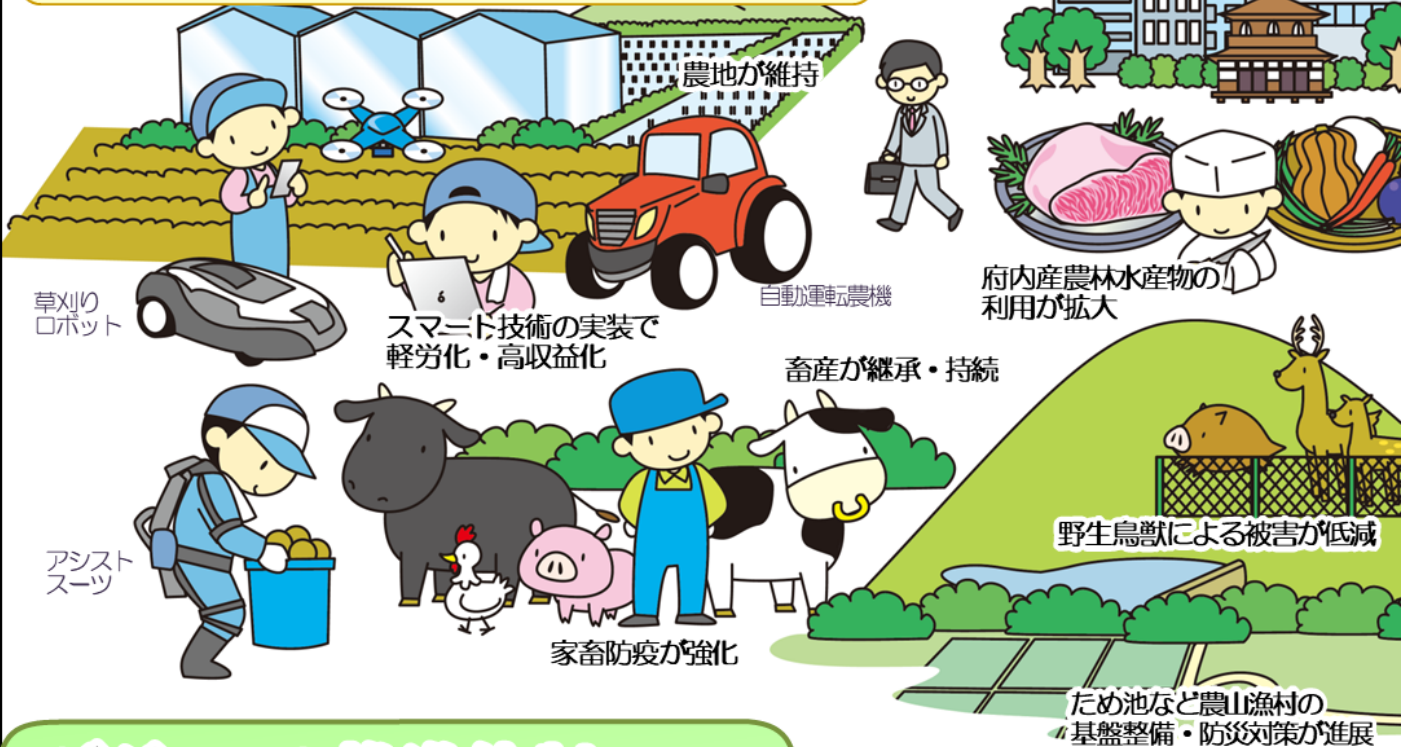
1 京都府農林水産ビジョンの考え方	4
(1) 策定に当たっての基本認識と趣旨	
(2) 京都府総合計画や地域振興計画等との関係	
(3) 計画期間	
2 京都府の農林水産業・農山漁村の将来ビジョン	4
(1) 概ね20年後(2040年)に京都府の農林水産業・農山漁村が実現したい姿	
(2) 京都府の農林水産業・農山漁村の将来展望	
3 将来ビジョンの実現に向けた5つの重点戦略の展開	10
(1) 今後4年間で集中展開すべき5つの重点戦略と基本的な考え方	
(2) 5つの重点戦略に基づく施策方向と目標数値の設定	
4 ビジョンの推進・見直し体制	30
(1) ビジョンの推進体制	
(2) 関連施策の推進と分野別計画・指針の見直し	
(3) ビジョンの進捗管理と府民への見える化	
(4) 多様な関係者との連携・ネットワークづくり	
現状分析 農林水産業と農山漁村を取り巻く現状とすう勢	33
(1) 農林水産分野を取り巻く全国的な動向や京都府の状況	
(2) 京都府農林水産業・農山漁村の動向や進捗・課題	
(3) 京都府の農林水産施策の変遷	
(4) 農林水産京カプランに基づく施策推進の成果、残された課題	
参考資料	76
京都府農林水産ビジョン検討委員会の設置と開催状況	
目標数値一覧	

京都の農林水産ビジョン



ビジネス(農林水産業)⇒P5

- 中山間地の多い京都に合わせたスマート技術の実装が進み農林水産業の収益力が向上しています
- 京都の農林水産物が国内外から愛されています
- 農林水産業の担い手が育ち、各地で活躍しています



ビジョンの推進体制 ⇒P30

窓口機能

農林水産業・農山漁村に関する相談が気軽にでき、これらに関わりたくなるような窓口として各地域で活動します

個々に応じた伴走機能

相談を受けた課題の解決や交流で生まれたアイデアの実現を「応援隊」等が現場で伴走支援し、業種を越えたビジネス興しを行います

～ 希望と活力に満ちた農林水産業と農山漁村暮らしの共創～

京都ならではの多様で特色ある農林水産業・農山漁村を次の時代に確実に引き渡すため、今後の農林水産行政を計画的かつ総合的に進めて参ります

コミュニティ(農山漁村)⇒P6

- 観光や農山漁村体験などにより地域のファンが増え京都の農山漁村に関わる人が大幅に増加しています
- 京都ならではの都市と田舎の近さを生かし二地域居住や兼業・副業など新しいライフスタイルの場になっています



地域資源の観光活用によるビジネスが展開



農山漁村体験などで関係人口が増加



農産物直売所、6次産業化農家レストランなどで収益が向上



都市から農村への周遊



多言語表示で安心して食を選択



ICE CREAM



農山漁村への移住者が増加



二地域居住・週末農家が増加



UI・Jターン・移住者向け住居が充実



山地災害対策が進展
治山ダム

セキュリティ(安心・安全)⇒P7

- 農山漁村、森林の防災・減災対策が進み気象災害等による被害が最少限になっています
- 品質管理、多言語表示などが進み府内全ての人が常に安全な食を選択できます



サテライトオフィスなど空家の活用が増加

オープンラボ(研究・交流)機能

産学公の緊密な連携により農林水産業・農山漁村の課題と解決方法を研究するとともに、府民の参画につながる交流の場を作ります

メディア機能

魅力ある京都の農林水産業や農山漁村での暮らしなどを広くPRして、京都に興味のある方々を大きく巻き込む活動をします